

謝 辞

平成19年1月、国立大学法人名古屋大学大学院生命農学研究科と愛知県農業総合試験場との研究協力に関する協定が締結され、「研究員の交流と人材育成」として、大学による農総試研究員の学位取得に関する支援が位置づけられた。最近の社会の変化はスピーディで激しく、農業もまた、大きな変化を見せ始めている状況に直面して、私は、これまで携わってきた農業改良普及事業や農業行政の経験、研究の成果を学術的な視点から見直して、農業、農家、農村の本質を追究したいと考えるようになり、大学院での研究を希望した。

農総試の研究員が、名大との協定に基づいて大学院生として研究する初めてのケースであったにもかかわらず、生命技術社会システム学講座食糧生産管理学研究分野の竹谷裕之名誉教授、淡路和則准教授、三浦聡助教は、私を快く迎え入れてくださった。このことに、まず、感謝申し上げたい。指導教官の淡路先生には、「何度も現場に足を運び、実態を把握し、その事実が意味するものを考える」という社会科学の研究者の基本的な心構えから教えていただいた。また、その言葉どおり、現地調査に何度も同行していただいた。ゼミナールは、現地調査で把握した実態を論理的に分析するトレーニングの場であった。思いこみによって狭くなっていた視野が、先生のご助言によって一気に広がり、それまで見ていた風景ががらりと変わったことは一度や二度ではない。先生の薫陶を受け、この論文をまとめることができた。感謝の気持ちは言葉に尽くせない。竹谷先生には、大学院に入学する前から学会発表を聞いてくださり、ご指導していただいた。1年間という短い期間ではあったが、研究テーマに関するご助言のみならず、農業政策の方向性や農業改良普及事業のあり方などについて、長年の多大なるご研究の実績に基づいたご高説を拝聴することができ、大いに啓発された。三浦先生には、随時、適確なご指摘、ご指導をいただいた。ゼミナールの院生・学生諸君とは、調査をともにし、議論を重ね、貴重な意見を頂戴した。深く感謝申し上げます。

この研究は、これまでに行われていない畦畔管理作業の実証的な調査を核とするものであり、農家の方々のご協力なくしては、完成を見なかった。調査にあた

り快く作業の実演、記帳や経営データの提供をしてくださった加藤靖彦総代はじめ岡崎市山綱町、羽栗町、舞木町の皆様、岡崎市正名町オペレーター加藤様、岡崎市岡町小久井農場様、畦畔管理の実態について教えていただいた岡崎市額田町アグリみかわ様、愛西市杉村義仁様始めたくさんの農家の方々のご厚情に感謝する。現場の調査では、愛知県西三河農林水産事務所農業改良普及課鈴木博文主任専門員、愛知県県民生活課佐光佳弘主査のご協力を賜った。

そして、研究のきっかけを作ってくくださった愛知県農業総合試験場企画普及部山田勝部長、愛知県農林水産部農業経営課濱田千裕主幹、農地整備課宮本晃主幹、愛知県農業協同組合中央会神田多喜男主管、研究の場を整備してくくださった愛知県農業総合試験場伊藤清一場長、作物研究部加藤祐司総括研究員、企画普及部山口晴男総括研究員、いつも励ましてくれた作物研究部田中雄一主任研究員始め職場の皆様に、篤くお礼を申し上げる。

最後に、私を支えてくれた家族に謝意を表したい。特に、妻敬子と在学中に生まれてきた長男暉玖、ありがとう。